

# 令和4年度「高等学校段階の病気療養中等の生徒に対するICTを活用した遠隔教育の調査研究事業」成果報告書

実施機関名 長野県教育委員会

## 1 事業実施前の状況及び課題

本県では、高等学校段階における長期入院生徒に対する学習支援をさらに充実させるため支援体制の構築に着手した。令和元年度には「県立高校に在籍する生徒の入院時学習支援実施要綱」を策定し、遠隔システムを活用した学習支援を行うなかで、速やかな多職種カンファレンスの実施と適切な学習支援体制を構築するための学習支援コーディネーターの必要性、対面とオンラインを組み合わせ、より学習効果を高める学習支援の方法、適切な学習評価の方法などの課題が浮かび上がった。

令和4年度は文部科学省の委託事業である「高等学校段階の病気療養中等の生徒に対するICTを活用した遠隔教育の調査研究事業」の指定を受け、令和3年度に引き続き学習支援コーディネーターを設置することによる速やかな学習支援体制の構築や、ICTを活用した遠隔教育（同時双方向型授業とオンデマンド型授業）と対面指導の効果的な組合せによる丁寧な学習支援の在り方、また病弱教育の意義や重要性についての認識を高めるための研究を行った。

令和3年度に長期入院生徒に対する学習支援が行われた件数は5件であり、令和2年度の3件と比べ増えていることから、学校における病弱教育の意義や重要性についての認識は高まっていると考えられる。また、令和3年度から設置されたICT教育推進センターとの協力により、ICT教育パイロット校による実践研究や教員対象の訪問研修などを実施し、ICTスキルの向上が図られたことも、学習支援が行われた件数が増えた一因であると考えられる。

一方で、令和3年度同様、新型コロナウイルスの感染拡大により、非常勤講師等の派遣による対面指導など計画どおりにいかない点もあった。さらに学習支援コーディネーターの活用を希望する学校が無く、その点に関する研究を進めることができなかった。各校で自走に向けた取組が進められている面もあるが、入院生徒に寄り添った学習支援を行うにあたって、そのノウハウが無い学校にとっては依然として学習支援を行うことのハードルは高く、学習支援コーディネーターの役割について引き続き研究を行う必要がある。また、長期入院生徒に対する学習支援制度についての認知度はまだ高くなく、病院や中学校などに対する制度の周知なども課題として挙げられる。

## 2 事業の目的

長野県立高等学校に在籍する生徒のうち、長期入院しているものの、修学的意思を強く持ち、復帰に向けて学習意欲がある生徒に対して、特別支援学校等を介することなく、在籍校の授業と級友とのつながりを作ることによって、「生徒の思い」を大切にしたい学習支援を実施する。

学習支援の主な目的は、以下のとおりである。

- ① 学習機会の保障と退学や原級留置の防止。
- ② 在籍校への所属意識の維持。
- ③ 心理的不安の軽減。

併せて、研究内容をまとめ各校に周知することで、将来的に本県で行っている事業を活用しなくても、学校が独自に学習支援を実施できる環境や体制をつくることを目的とする。

### 3 事業の内容及び成果

#### (1) 年度当初の実施体制計画

##### ア 長野県教育委員会事務局学びの改革支援課

- ・ 支援事業の対象は、すべての県立高等学校（指定校は置かない）
- ・ 年度当初に「学習支援コーディネーター」（会計年度任用職員）を雇用
- ・ 学習支援コーディネーター及び各機関との連絡、調整
- ・ 学習支援実施に伴う各種手続の受理
- ・ 第1回カンファレンスの開催（学習支援の実施に向けた情報共有と検討）
- ・ 遠隔教育を実施する際の機器貸与
- ・ ICT 教育推進センターと連携した ICT を活用した学習方法の指導・助言
- ・ 対面による学習支援を実施する際の学習支援員（非常勤講師・ボランティア等）の派遣
- ・ 病弱教育の意義や重要性についての理解を深めるための研修会の開催
- ・ 制度の内容について県民へ広く周知
- ・ 事業の円滑な運用に向けた調整及び事後評価のまとめ
- ・ 学習支援コーディネーター会議の開催（年3回）
- ・ 入院生徒学習支援評価検討会の開催（年1回）

##### イ 学習支援コーディネーター

- ・ ワンストップ窓口として、学校、医療機関、本人・保護者等との調整、支援の実施体制の構築や、支援に必要な ICT 機器の手配等
  - 〔生徒へ〕ニーズに応じた効果的な学習支援方法を提案（人的派遣・遠隔授業等）
  - 〔病院等へ〕治療の状況、病室環境、主治医の所見等を確認、打合せ
  - 〔学校へ〕生徒のニーズにあった時間割や教育課程の編成・助言、ICT 機器活用の支援
- ・ 関係各所と調整を図り、2回目以降の多職種カンファレンスの開催
  - 〔構成員〕生徒・保護者、医療機関代表（主治医、治療責任者、看護師、医療ソーシャルワーカー等）、学校代表（校長、教頭、担任等）、学習支援コーディネーター
  - 〔内容〕病状、治療計画や支援方針の共有、学習支援内容の提案
- ・ 学習支援方法、学習支援実施体制（学校・病院）構築のための支援
- ・ 学習支援コーディネーター会議への参加
- ・ 入院生徒学習支援評価検討会への参加

##### ウ 調査研究のための連携病院

- 〔連携先〕長野県立こども病院、信州大学医学部附属病院の他、該当生徒の入院先の医療機関
- 〔研究内容〕
  - ・ 心理的不安の軽減につながる学習支援のあり方や支援体制づくりの共同研究
  - ・ 院内における遠隔システムを用いた学習支援の実践研究（物的・人的環境整備及び事業の円滑な実施）
  - ・ 対面で学習指導を実施する際の非常勤講師・ボランティア等による学習指導の運用研究
  - ・ 当該生徒の入院期間及び退院後の学習支援コーディネーターを中心とする連携体制の在り方の研究

##### エ 学習支援コーディネーター会議（年3回）

- 〔構成員〕学習支援コーディネーター（3名）、長野県立こども病院 医師・SW（ソーシャルワ

一カー)、信州大学医学部 医師、長野県教育委員会事務局 担当者

〔内 容〕各事例の学習支援実施状況の情報共有ならびに検証

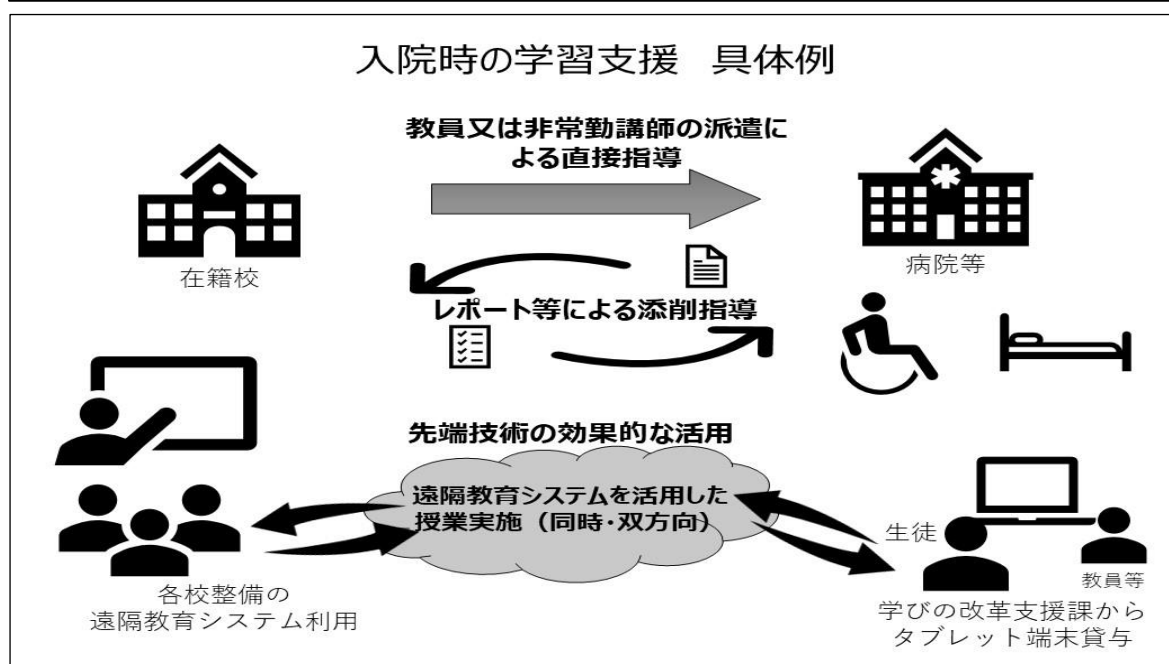
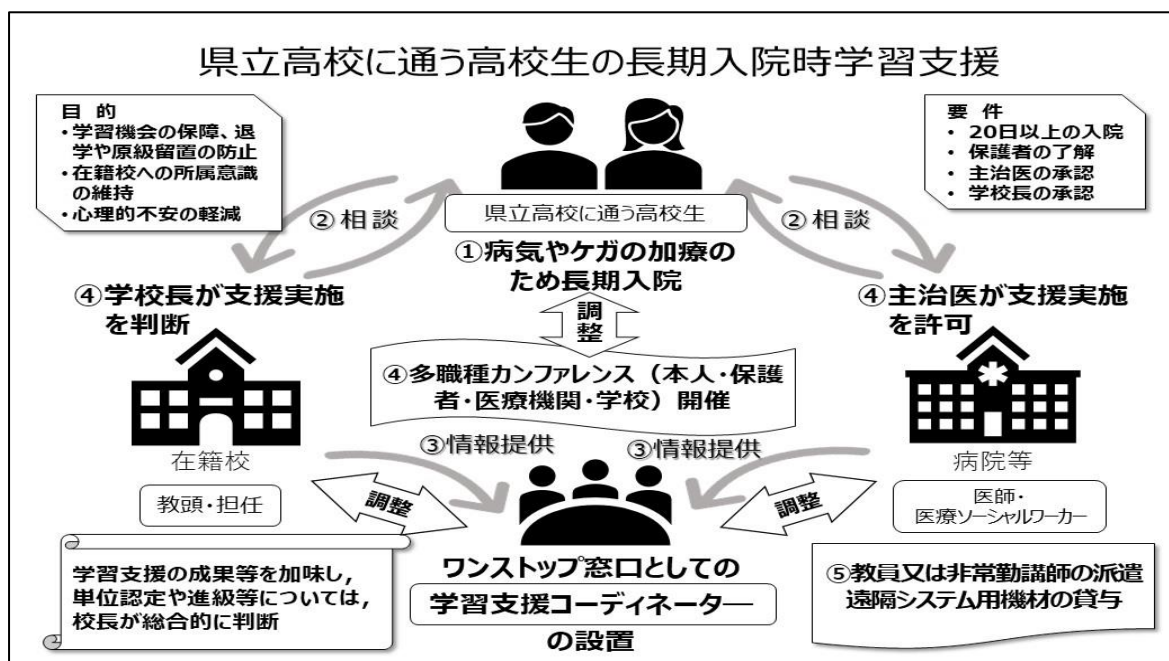
- ・学習支援実施体制、学習支援方法等の改善・充実に向けた研究
- ・病弱教育、病気に係る正しい理解とその支援に向けた研修

オ 入院生徒学習支援評価検討会（年1回）

〔構成員〕信州大学医学部 教官・医師、長野県立こども病院 病院長・医師、学習支援コーディネーター（3名）、長野県教育委員会事務局 担当者

〔内 容〕今年度の学習支援について総括

- ・学習支援コーディネーターを中心とした支援・連携体制の在り方
- ・学校や病院における支援体制
- ・遠隔教育と対面授業を組み合わせた効果的な学習支援の在り方
- ・本県の定める学習支援実施要綱の内容や事業の普及に向けた対応 など



## (2) 取組及び成果

ア 令和3年度を取組をふまえ、令和4年度は以下の5点の成果を見込んで取り組んだ。

(ア) 学習支援を受けた生徒に対してアンケートを実施し、実際の支援の在り方に対して検証を行うことで、今後のより効果的な学習支援につなげることができる。

学習支援が終了した生徒に対して、Google フォームでアンケートを実施し、使用機器、授業受講時の困りごとやその相談先、授業以外でのやりとりで良かったこと、どのようなサポートが行われるとよいかなどについて、学習支援に対する満足度を質問した。「満足」「おおむね満足」という回答を得た。「復帰後も授業についていけることがよかった」「授業以外で級友と関わることができて良かった」という回答があった。一方で、「配信される授業で映る黒板が小さくて見づらい」という指摘もあった。これらの内容については、今後全県で共有していきたい。

\*アンケート内容一部抜粋

|    |                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 質問 | オンライン授業受講時に困ったこと。                                                                                                                                                                                                                                             |
| 回答 | <ul style="list-style-type: none"><li>・声がこもっている人は話が聞きづらかった。</li><li>・画質が悪くて黒板の文字や、ホワイトボードの文字が見えなかった。</li><li>・雨の日や雷の日は途切れ途切れだった。</li><li>・黒板の文字が見づらかった。</li><li>・ルーターがなかなか届かなかった。</li><li>・画質が悪くなくて見にくい時があった。</li><li>・電子黒板が光って見えなかった。</li></ul>              |
| 質問 | オンライン授業受講以外で、ICT 機器を通したやり取りでよかったこと。                                                                                                                                                                                                                           |
| 回答 | <ul style="list-style-type: none"><li>・何人かクラスの人が話しかけてくれて嬉しかった。</li><li>・担当の先生方ができる範囲でいいよ、と言ってくれたのが嬉しかった。辛い中でも頑張ろうという気持ちになった。</li><li>・SHR での級友とのやりとりができた。</li><li>・担任の先生、教科担任の先生と連絡できた。</li><li>・勉強での調べ物ができた。</li></ul>                                       |
| 質問 | 学習支援全般についてよかったこと。                                                                                                                                                                                                                                             |
| 回答 | <ul style="list-style-type: none"><li>・学習が思ったよりも出来ていた。</li><li>・他の人には治療の関係で置いてかれてしまったが、ここまで準備してくれたこと自体嬉しい。情報の授業は追いついていると思う。</li><li>・授業を受ける事ができたおかげで登校してからも授業についていくことができた。</li></ul>                                                                          |
| 質問 | 今回の学習支援を踏まえて、今後受けられるとよいサポート。                                                                                                                                                                                                                                  |
| 回答 | <ul style="list-style-type: none"><li>・教室にあるカメラの位置を前に持ってほしい。</li><li>・もうちょっとはやく WiFi ルーターが来て欲しい。</li><li>・今回学習支援をしてもらい、登校できない期間も学校との繋がりをもち続けることができ、学習面でも大幅な遅れもなく登校してからも馴染む事ができた。ありがとうございました。学習支援について知らない病院や生徒もいると思うのでこの支援を知ってもらい支援を受けれる人が増えたらいいと思う。</li></ul> |

(イ) 病弱生徒に対する学習支援に見識の深い教育関係者による講演を聴くことで、主な窓口となる教頭が長期入院生徒に対する学習支援の必要性についての理解をさらに深め、実施にあたっての具体的な対応策について確認することができる。また、その講演内容を活用した校内研修を実施することで、長期入院生徒に対する学習支援の必要性について多くの教員が理解し、これまであまり学習支援を行うことができなかった病気の生徒（例えば心身の不調等による長期入院生徒等）に対しても学習支援を行うことにつながる。

9月に全県立高校の教頭を対象として、オンラインで入院生徒学習支援研修会を実施した。長期入院生徒が置かれている状況、そのような生徒に対する特別な支援や合理的配慮の必要性について、関西学院大学丹羽登教授に講演していただいた。当日の講演動画と講演資料を全校共有サーバーにアップロードし、各校での職員研修で活用できるようにした。

これらの取組の成果として、特に講演会后、本課への学習支援についての問合せが増え、7名の長期入院生徒に対して7校が支援した。

(ウ) 多くの教員がICTを効果的に活用できるスキルを身に付けることで、学校や授業担当による格差が無くなり、教室で受ける授業に近い学習内容を入院生徒に対しても提供することができる。ICTを活用した指導と対面指導を組み合わせることで、生徒の心理的不安が軽減するとともに、課題の提出や回収などに伴う保護者の負担軽減を図ることができる。また病院内の環境によりグループワークなどの活動が難しい状況であっても、課題などのやり取りを頻繁に行ったり、学習の記録をログに残したりすることで、観点別評価を行う際の資料とすることができる。

令和4年度から新たに担当に据えたICT教育推進センターの職員が機器の貸出や活用について助言することで、各校が実情に応じた学習支援を行うことができるようにした。課題などのやり取りは紙媒体とGoogle Classroom等を併用して行った。予定していた遠隔授業に治療等で出席できなかった場合に備え、授業を録画してGoogleドライブなどのクラウドに保存し、生徒があとで視聴できるようにするというような学習支援は行わなかった。

体育などの実技科目については、授業内容に関連する動画の視聴やレポートの提出に置き換えるなどの対応をした学校があった。定期考査の受査については、保護者の職場や入院中の病室で生徒が受験するなどの対応をした。

このような特別な支援については、生徒の状態や学校の状況により異なるが、柔軟な対応策は他校にとっても有益な情報であるため、全県で共有できるようにしたい。

(エ) 学習支援コーディネーターを設置し、学習支援を行う際に活用することで、授業配信のみに留まらない、生徒に寄り添った支援を行いつつ、学校や保護者の負担を軽減することができる。また学習支援コーディネーターが行う内容を精査しチェックリスト化することで、将来的に学校が独自に学習支援に取り組む際に、生徒に寄り添った学習支援体制の構築につなげることができる。

多職種カンファレンスでは、病院や在籍校から生徒の状況について情報を提供し、学習支援コーディネーターや県教育委員会から他校の事例などを紹介し、その生徒に適した学習支援の在り方を検討した。これまで行ってきた入院生徒に対する学習支援事例の蓄積により、多様な支援の在り方

を提案することができた。

生徒の状況の変化に応じて、速やかに関係者が一堂に会して学習支援の開始時期や頻度について検討することは重要であり、この方法を継続するとともに、カンファレンスの運営方法について全県立高校と共有を図り、自走する際の一助としたい。

(オ) 高校だけでなく、病院や中学校に対しても「県立高校における長期入院生徒への学習支援事業」について周知することで、支援の必要性についての理解が広がるとともに、制度について知らなかったため学習支援を受けることができなかったという状況を無くすることができる。また高校生が安心して治療を受けられたり、中学生が広く進路選択を考えることができるようになったり、病院が柔軟に治療計画を立てられるようになる。その結果、多くの生徒に対して学習支援を行うことにつながる。

中学校に対して本事業について周知することで、高校入学時から学習支援を必要とする生徒がいる場合、中学校や保護者が、高校に対して入学前に相談することができ、高校は事前に受け入れ体制を整えることができる。これにより、当該生徒の学習に対する不安を軽減することができる。

病院に対しては、治療計画を優先しながら、学習を継続できることを知ってもらい、休学や転学等を行わずとも学習と両立した治療計画を検討してもらうことができる。令和4年度はチラシ・リーフレットを作成し、県内全中学校と小児科・整形外科を有する主要な病院に送付し、周知した。

#### イ 学習支援実施状況（令和4年度は7名の生徒に対して実施）

##### (ア) 支援開始までの流れ

- ・学習支援事業について、在籍校からだけでなく、入院先の病院からも保護者に対して情報を提供してもらうことがあった。
- ・中学校から高校へ情報提供及び相談があり、高校入学前に学習支援の体制を整えることができた。
- ・支援開始を検討するカンファレンスの開催やWiFi ルーター等の機器貸出までに、4日から16日かかった。

##### (イ) カンファレンスの開催、病院での学習環境の構築

- ・対象生徒それぞれの入院先に対して、本課から事業を説明し学習支援について相談した。
- ・本課が関わった3院のうち、1院はケガによる入院で、カンファレンスを行わなかったが、学校が病院と密に連絡をとって対応した。
- ・他の2院は病気による入院で、カンファレンスでは、授業配信の開始時期、1日の受講時間数や授業以外の課題の量などについて、生徒の回復状況を加味して検討した。
- ・各病院においては、院内での配信授業の受講を認めてもらったり、学習スペースを個別に用意してもらったり、院内のWiFiを使用させてもらったりするなど、学習支援の実施について理解してもらった。
- ・生徒の退院後の生活についての注意事項なども共有した。
- ・学習意欲の高い生徒が、授業進度に遅れたくないという思いや進級したいという思いを募らせるあまり、無理をして学習に取り組まないよう、ゆとりのある学習計画を立てて担任を中心に日々のケアを行った。

(ウ) 同時双方向型授業の配信方法、教員の体制

- ・学校におけるオンライン配信の環境は、機材面でも技術面でも整ってきており、教室にタブレットを設置し、Google Meet を活用して、授業の様子をオンライン配信した。
- ・教室移動を伴う授業において、級友が教室のタブレットを移動させるなど、当該生徒がその優しさにふれることで、学校への復帰に向けた意欲が高まった。
- ・個室ではない病室のベッドで配信された授業を受講する場合は言葉を発することが難しいため、生徒の発言が限られ、一方向型の授業になることもあった。
- ・ホームルームも配信して授業以外でも交流することが、生徒の励みになった。

(エ) 学習状況の確認方法、単位認定や評価方法

- ・出席については、授業の開始時と終了時に授業担当者が入院生徒とコミュニケーションをとりながら確認している。
- ・配信した課題への取組状況を評価した。
- ・定期考査等の受査が困難な場合は、他の課題等に置き換えることもあった。
- ・病院に外部の人間の出入りが制限されているため、課題等の受渡しは、保護者や病院関係者を通じて行った。

ウ 評価検討会議での意見（令和4年度は令和5年3月17日に実施）

(ア) 学習支援の更なる啓発について

- ・教頭研修等で各校に周知したことは良かった。新聞報道などでも、全国での学習支援の取組が知られるようになってきた。更に普及啓発活動が進むことを望む。

(イ) 生徒・保護者、医療機関に向けた学習支援の周知について

- ・高校入試終了後に入院し、高校入学後すぐに学習支援を開始した例では、病院から対象生徒や保護者に情報提供が行われ、支援体制をスムーズに構築できた。手術後に転院をして加療した例では病院間の連携がとられていたことで、転院後の病院での学習支援を速やかに開始できた。このような点から見て、医療機関への周知は必要である。
- ・同じ病院内でも、診療科によって学習支援に対する理解や取組は異なるため、高校での周知を徹底した方がよい。高校から病院に学習支援の必要性を働きかけてもらい、対応に不安がある病院は、連携病院に問合せてもらえばよい。
- ・チラシ及びリーフレットを病院に送付する場合、看護部あてにすれば、どの診療科にもつながり、周知にもれがない。

(ウ) 学習支援内容について

- ・同時双方向型授業は大切であり、原則はそうに行われるべきだと思うが、体調がすぐれないときにオンデマンド型授業を後で受ける、というのも良い。それが教員の負担になってしまっているといけないが、そのような体制がつくられるようお願いしたい。
- ・オンデマンド型授業は何回でも繰り返し学べる良さがある。また、それをそれぞれの学校で作成して配信するのではなく、色々な学校で行われた授業をお互いに活用できるような体制を構築して、各校がその都度同時双方向型授業をオンライン配信しなくても済むようにするなど、工夫する余地はある。
- ・専門学科に多い実習の授業の学習支援をどのように行うかは課題である。
- ・新学習指導要領における評価などについて、どのように取り組むかは課題である。

(エ) その他

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学習支援コーディネーターが病院に入ることができず、生徒や保護者と直接会う機会がなかった。
- ・今後新型コロナウイルスの取扱いが変わるので、面会制限は緩んでいく見込みである。学習支援コーディネーター等には、病院へ来て、直接指導してもらいたい。
- ・生徒がひとりで学習意欲を保ち続けるのは難しい。直接声掛けをして、学習の進捗状況を管理して生徒を支えてくれる人が必要である。
- ・病院としては、可能な範囲で学習スペースを確保したい。

エ 「学習支援コーディネーター」の活用実績と成果

| 主な経歴・資格                      | 活動内容実績（回数、活動形態）                                                                                   |
|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 元高等学校長                       | 6時間（3日）（オンライン会議）<br>教育委員会からの要請に応じてその都度活動                                                          |
| 具体的な活動内容と役割                  | 活動の成果                                                                                             |
| ・カンファレンスへの参加。<br>・評価検討会への参加。 | ・東北信地区担当のワンストップ窓口として、学習支援の実施に向け情報を集約し、病院と学校との連携に努めた。<br>・元校長としての知見を生かし、カンファレンスや評価検討会の際に的確な助言を行った。 |

| 主な経歴・資格                      | 活動内容実績（回数、活動形態）                                                                                             |
|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 元高等学校長                       | 12時間（7日）（オンライン会議、病院、学校）<br>教育委員会からの要請に応じてその都度活動                                                             |
| 具体的な活動内容と役割                  | 活動の成果                                                                                                       |
| ・カンファレンスへの参加。<br>・評価検討会への参加。 | ・南信地区担当のワンストップ窓口として、学習支援の実施に向け病院及び学校へ直接出向くなど、情報を集約し、両者の連携に努めた。<br>・元校長としての知見を生かし、カンファレンスや評価検討会の際に的確な助言を行った。 |

| 主な経歴・資格                                             | 活動内容実績（回数、活動形態）                                                                                  |
|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 元高等学校教頭                                             | 8時間（4日）（オンライン会議）<br>教育委員会からの要請に応じてその都度活動                                                         |
| 具体的な活動内容と役割                                         | 活動の成果                                                                                            |
| ・カンファレンスへの参加。<br>→参加した保護者に対して助言を行った。<br>・評価検討会への参加。 | ・中信地区担当のワンストップ窓口として、学習支援の実施に向け情報を集約し、病院と学校との連携に努めた。<br>・元教頭としての知見を生かし、カンファレンスや評価検討会の際に的確な助言を行った。 |

オ 「学習支援員」の活用実績及び役割

| 主な経歴・資格（人数）                                 | 活動内容実績（回数、活動形態）                                                |
|---------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 高等学校非常勤講師（1名）                               | 8時間（3日）<br>教育委員会からの要請に応じてその都度活動                                |
| 具体的な活動内容と役割                                 | 活動の成果                                                          |
| ・定期考査を校外で実施し、その試験官を務めた。当該生徒の在籍校の非常勤講師を任用した。 | ・定期考査を受査できたことで、生徒及び保護者は精神的に落ち着くことができた。学校は考査の成績を評価の材料とすることができた。 |

## 4 今後の課題と対応

### （1）学校に向けての学習支援の更なる啓発

学習支援を実施した学校の教員からは「これまでこのような事業があることを知らなかったが、この学習支援に取り組んだことで校内でも周知されてよかった」という声が寄せられた。全県立高校において一定の成果が見られたものの、教頭研修会等での更なる情報提供の必要性を感じた。

引き続き講演会や研修会を行い、特に各校が柔軟に取り組んだ学習支援の事例の共有に努めたい。

### （2）生徒・保護者、医療機関に向けた「県立高校に在籍する生徒の入院時学習支援事業」の周知

生徒アンケートで、「病院や生徒がこの学習支援を知り、支援を受けられる人が増えることを期待する」という意見があった。令和4年度は高校や中学校に加えて、県内の小児科・整形外科を有する総合病院に対してチラシ及びリーフレットを送付して周知を依頼したが、引き続き生徒・保護者が学習支援の情報にふれる機会を増やすことで、必要な支援を確実に受けられるようにしたい。

また、評価検討会議で指摘があった、各病院の看護部での周知について検討したい。

### （3）学習支援内容の研究

学習支援を実施した各校とも、教員が黒板の前から授業を配信する形式には慣れていたが、「同時双方向型と言いながら、どうしても一方向型の授業になってしまう」という教員の意見があった。教室での授業では少人数でグループを作って学びを深めているが、入院中の生徒であってもプライバシーに配慮しながらそのような授業に参加する方法を研究したい。

また、授業評価やオンデマンド型の授業配信についても研究したい。

この研究で大事なのが各校の取組事例の収集と共有である。令和4年度は事例の共有を、学習支援コーディネーター会議に代えて、県教育委員会担当者とコーディネーターとで行った。令和5年度はコーディネーター同士が病院等で直接得た情報を共有できる場の確保に努めたい。

## 5 問い合わせ先

担当部署：長野県教育委員会事務局学びの改革支援課  
所 在 地：長野県長野市南長野字幅下692-2  
電話番号：026-235-7435  
FAX番号：026-235-7495  
e-mail：[kyogaku-koko@pref.nagano.lg.jp](mailto:kyogaku-koko@pref.nagano.lg.jp)